1　国語

学校番号	T2101

平成３１年度　国語科

教科	国語科	科目	古典Ａ	単位数	２	年次	１～４
使用教科書	「古典Ａ　物語選」　（大修館書店）						
副教材等	なし						

１ 担当者からのメッセージ

・物語を中心とした古典を学習します。
・文法や知識よりも、作品の世界に触れることに重点をおきます。
・和歌や論語の学習もします。
・声を出して音読をすることも大切にします。

２ 学習の到達目標

・古文に親しみ、スムーズに音読できるようになる。
・古文の作品の世界に触れる。
・和歌を鑑賞し、日本の美意識に触れる。
・作者の時代背景や思想について理解を深める。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	授業に積極的に参加している。 わからないことは質問し、発問に対して答える。 課題をきちんとこなす。			古典の主旨を適切に読み取る。 古典の書かれた背景も理解する。	古語の意味を理解する。 文学史の流れをおさえる。
主たる評価方法	行動の観察 記述の確認 （配布プリント・課題）			記述の確認（配布プリント・課題） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （配布プリント・課題） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
古文　前期(後期も同じ内容)	説話	今昔物語集 教材 「安倍晴明」	○			◎	○	a：陰陽師として映画化もされた安倍晴明の不思議な話に興味を持つ。 d：平安時代の陰陽師や貴族文化を理解する。現代語訳されたものやマンガと比較しながら、古文の意味を理解する。 e：古語や基礎的な文法の知識を持つ。	a:授業の観察 d:プリント 定期考査 e:定期考査
		宇治拾遺物語 教材 「検非違使忠明のこと」	○			◎	○	a：京都の清水寺の舞台について興味を持つ。 d：当時の京都の治安状況について理解する。 古文を現代語訳することができる。	a:授業の観察 d:プリント 定期考査
	随筆	方丈記 教材 「行く河の流れ」	○			◎	○	b：方丈記の冒頭を暗唱できる。 d：鴨長明の人物像について理解する。 方丈記が書かれた時代背景を理解する。 古文を現代語訳することができる。	b:発表の観察 d:プリント 定期考査
	物語	竹取物語 教材 「かぐや姫の昇天」	○			◎	○	a：おとぎ話として有名な竹取物語に興味を持っている。 c：かぐや姫の物語の感想文を書くことができる。 d：教科書で紹介した場面以外にも、現代語訳を読んであらすじを理解する。	a:授業の観察 c:課題の状況 d:プリント 定期考査
		大和物語 教材 「をばすて」	○			◎	○	a:をばすての物語を通じて、当時の庶民の生活の様子や、現代の高齢化社会について考えることができる。 d：古文を現代語訳し、登場人物の心情を読み取ることができる。	a:授業の観察 プリント d:プリント 定期考査
		源氏物語 教材 「桐壺」	○			◎	○	a:平安貴族の恋愛の様子や身分制度について興味を持っている。 d：教科書で紹介した場面以外にも、現代語訳を読んであらすじを理解する。	a:授業の観察 プリント d:プリント 定期考査

		源氏物語 教材 「若紫」	○			◎	○	c：源氏物語に登場する女性についてグループごとに調べてまとめる。さらに発表を行う。 d:古文を現代語訳することができる。	c:グループワークの観察 発表の観察 d:プリント 定期考査
	軍記物語	平家物語 教材 「能登殿最期」	○			◎	○	a：源平合戦に興味を持つ。耳なし芳一などの関連する文学にも興味を持つ。 d：古文を現代語訳することができる。	a:授業の観察 d:プリント 定期考査
	百人一首	教材 「百人一首」	○				○	a:かるたや映画のちはやふるを通じて百人一首の世界に興味を持つ。 b：百人一首を暗唱することができる。 c:自分で和歌を作り、発表することができる。	a:授業の観察 b:授業の観察 c:課題の観察
	論語	教材 「孔子と門人たち」	○			◎	○	a：現代日本にも影響を与えている論語に興味を持つ。 d：論語の読解を通じて、現代社会のさまざまな問題に論語の考え方を生かすことができる。	a:授業の観察 d:授業の観察 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。